

内勸一品彼狀之事談之、五月十二日、勸一品云、御即位之事、豊州へ近日使僧可罷下分也、然者使僧爲覺悟、御即位大底いかなる事あるぞと可尋之時、可答之由一紙可注送之由所望云、六月廿九日、御即位申沙汰之事、豊州大友内々存寄事也、去年直談也、其分猶罷下者可申調之趣、不分明被相述、予云、此事内々以別人令仰之筋有之由承及等、猶令奏聞可申由答了、後六月六日、勸一品來臨、豊州下向之僧云、玆書御即位之事、假令別人申入候共、此筋ばかりにて可被仰調之由一筆所望云々、書遣云々、

〔御湯殿の上の日記〕永祿二年五月十三日、安藝國毛利隆元備中國切取、今日注進、口御歡之注進又參、御之よくい申さたつかまつりける、よりてきとくにさりかちたるとてちうしん申、

〔御家藏文書〕

今度即位大禮、無事被遂其節訖、近代送年序之處、早速被申調候、天下之美譽、國家之芳聲、何事如之、時運既到、忠勤嚴重、寂感不淺者、天氣如此、仍執達如件

二月十二日

右少辨晴豊

毛利陸奥守殿

仰永祿三、二、十二

こんど御之よく位の事、するくくとどげおこなはれ候、之かしながら毛利ちそう申候つるゆへ、じやうじゆ候ぬるちうせつ、かぎりもなき事にてよろこびおぼしめし候、もと就にたいしりんしをなされ候、おなじくむつのかみせん下の事おほせいだされ候、猶御わたくしよりよくく心得候て、おほせ下され申候よし心へ候と申參らせ候かしく、

くわんしゆ寺